

JFA Mid-term Plan 2022-2025

JFA中期計画 2022-2025

January 12, 2022

Japan Football Association

JFA



1. 中期計画2021-2024 進捗状況の振り返り
2. 中期計画2022-2025

1. 中期計画2021-2024 進捗状況の振り返り

2. 中期計画2022-2025

中期計画2021-2024の全体像

フットボール

1 フットボールの進化【強化・育成】

「2050年までにワールドカップ優勝」に向けて

- 強化・育成のための中長期総合戦略の策定と実行
- 良質な指導とプレー環境の充実（技術担当専任化、競技カレンダー）
- JFA夢フィールド、JFAヨーロッパオフィス、JFAメディカルセンター等の連携
- パートナーシップによるテクニカル強化（インテリジェンス機能強化）
- アジア貢献、指導者の海外派遣
- 世界で活躍できる審判員の養成と国内リーグレフェリングの一層の向上

重点 3領域

4種年代

- 登録減少の歯止め（登録制度改革）
- 低学年を含めたプレー環境の改善
- 未就学児～低学年の施策強化
- 保護者の負担緩和／アプローチ

2 より多くの仲間とともに【普及】

「2050年までにサッカーファミリー1,000万人」に向けて

- 登録制度改革
- メンバーシップ制度の導入
- パートナーシップによる踏み込んだ直接的な普及施策
- 健康領域への新たなチャレンジ
- 戦略的な施設整備の推進（子どもの遊び場、まちづくり連携）
- 多様性の推進（障がい者サッカー、ウォーキングフットボール、eスポーツ等）

女子

- WE LEAGUEの開幕
- なでしこジャパンの更なる強化
- 国体女子U-16、高校女子価値向上
- 普及施策の推進（特に3種年代）

シニア

- シニアの競技プレー環境の充実
- フェスティバル等各種イベントの企画
- 健康領域の施策との連携
- メンバーシップ連携施策の検討、実施

デジタル 推進

強化・育成 テクニカル／フィジカル／メディカル

普及 登録制度改革とメンバーシップ

組織

3 強く、信頼される組織づくり

社会的な危機を乗り越える強く信頼される組織づくりへ

- あらゆる危機を想定した経営基盤強化と戦略的投資の実現
- 加盟団体も含めたサッカー界ガバナンス、コンプライアンスの強化
- 国際戦略の強化（存在感の発揮、国際機関での意思決定参画）
- SDGs、社会貢献の推進

ビジネス

4 新たな収益循環モデルの構築

代表の更なる高付加価値化と新たな事業領域の開発へ

- メンバーシップを核としたパートナーシップ施策の強化
- デジタル＊パートナー連携による高付加価値化
- メンバーシップ連携によるファン拡大施策と新たな収益機会の創出
- より有効なパートナーシップの検討

2021年度活動実績・主なトピック／フットボール【強化・育成】

① フットボールの進化【強化・育成】

② より多くの仲間とともに【普及】

③ 強く、信頼される組織づくり

④ 新たな収益循環モデルの構築

実績 トピック



- ✓ 東京オリンピック・パラリンピック（男子ベスト4、女子ベスト8、5人制ベスト5）、フットサルワールドカップ（ベスト16）、ビーチワールドカップ（準優勝）など各種国際大会に参加。
- ✓ 「Japan's Way」の可視化に着手。強化・育成に加え普及の観点も加味し、サッカーファミリーの拠り所となる考え方を整理。
- ✓ コロナ禍のガイドラインに則って**各種国内/国際競技会を運営**。政府実施のワクチン検査パッケージやQRコード等の技術実証に協力。また、JFA U-18プレミアリーグの参加チームを24に拡大、女子U-18全国リーグ、U-15地域リーグの構想を具体化。
- ✓ FAコーチ技術担当専任者は**24FAにて設置**が完了し、各県・地域にて事業を推進。
- ✓ JFA夢フィールドに**ビーチピッチを整備**。**JFAメディカルセンターを3月に再開**し、地元住民・近隣学校等と連携。
- ✓ 女性指導者専用の養成コースである**A-pro/A級/B級/C級を実施**。

評価点 成果



- ✓ **全カテゴリ代表でワールドカップ・ノックアウトステージ進出**を果たす。
- ✓ コロナ禍から**競技会が段階的に回復**。観客動員を増やす足がかりを構築した。
- ✓ 高校総体の冷涼地固定開催（J-Village）を決定。**暑熱対策の具体案を実現**した。
- ✓ 国際審判員を**新たに1名養成**。また山下良美さんが**女性審判員として初めてJリーグ主審**を務めた。

課題 改善点



- ✓ Covid-19の影響による国際カレンダーの変更や、ワールドカップの隔年開催案など、**不確定な外部要因が残る**。
- ✓ 東京オリンピックは男女共に目標としていた**メダル獲得には届かず**。
- ✓ 「Japan's Way」確立に向けた**指導者養成改革・エリートコーチ国際化・47FAの技術担当の専任化**は引き続きの課題と認識。

2021年度活動実績・主なトピック／フットボール【普及】

① フットボールの進化【強化・育成】

② より多くの仲間とともに【普及】

③ 強く、信頼される組織づくり

④ 新たな収益循環モデルの構築

実績 トピック



- ✓ **メンバーシップ制度改革**について理事会決議が完了。事業推進のための部署である**登録制度改革推進部**を設立。
- ✓ 普及施策として4種のサッカー未経験層に対して、パートナーと連携した**スターターキットの配布**を検討。
- ✓ 4種年代ゲーム環境改善のための**ガイドライン等**（ミニサッカーガイドライン、ヘディングガイドライン、セーフガーディングポリシー）を策定。
- ✓ 女子普及施策として**中学校サッカー部フェスティバル**をJFA夢フィールドで実施、3種年代・中学校部活動の活性化促進を図る。
- ✓ **シニアアンバサダーを任命**し、順天堂大学と提携した共同研究を実施（シニア・女性のサッカーによる健康への貢献について）。
- ✓ 提携クラブであるバイエル・ミュンヘンへの**交流促進**（人材派遣及び国内での事業サポート）。
- ✓ 2021年9月12日に**WEリーグが開幕**。累計85,771人のサポーターが来場（2021年11月21日時点／計50試合）。
- ✓ eスポーツサッカー日本代表が**FIFA eNations Cup2021のアジア予選を通過**し本戦の出場権を獲得。また 初のe国際親善試合を開催し、eスポーツサッカーの普及強化を推進。

評価点 成果



- ✓ メンバーシップ・登録制度改革については**企画フェーズが完了**。実施体制も含めて下地が整う。
- ✓ 重点3領域（4種・女子・シニア）に対して、特に4種年代について、中長期の成長に向けた**具体的なアクション**が開始。

課題 改善点



- ✓ 登録者の**増加トレンド創出には至らず**。次年度以降の施策実施が急務。
- ✓ 施設整備については、2023年度以降の助成制度の検討など、引き続きの残課題として認識。**降雪地域対策**なども考慮した具体案が求められる。

2021年度活動実績・主なトピック／組織

3 強く、信頼される組織づくり

4 新たな収益循環モデルの構築

実績 トピック



- ✓ **JFA100周年事業**として、約7,500人に対する表彰のほか、小・中・高の子どもたちを集めた「子ども会議」など、年間を通じた周年事業を実施。創立記念日である9月10日には**100周年セレブレーション**を実施。
- ✓ **ガバナンス・コンプライアンス担当理事を全47FAに設置**し、会計セルフチェックや47FA向けのガバナンス講習を実施。また、規程変更により加盟団体への指導力を強化。
- ✓ JFA事務局に**本部制を導入**。中期計画に合わせたフットボール・マネジメント・マーケティングの3本部の下で事業推進を図る。
- ✓ **JFA全事業再編に着手**。具体的な削減目標を定めた上で、事業の優先度付けを行う。
- ✓ SDGsに関する重点5領域を定義し目標を設定。方針に基づき**センサリールーム**や**ノンカーボンなどの取り組み**を推進。また、人工芝の環境に対する負荷への抜本的な対策の検討に着手。
- ✓ **JFAハウス有効活用**の検討を開始。
- ✓ 大会組織委員会からの委託を受けた**東京オリンピックサッカー競技の運営**。

評価点 成果



- ✓ コロナ禍ではありながら、100周年を迎え「**過去への感謝、未来への決意**」をステークホルダーと共有。
- ✓ ガバナンス・コンプライアンス強化に向けた**体制づくりが完了**。
- ✓ 100周年の節目の年における大会組織委員会からの委託を受けた**東京オリンピックサッカー競技の運営**と大会成功への寄与。

課題 改善点



- ✓ 加盟団体での**コンプライアンス事案**や競技現場での**ハラスメント事案が発生**。暴力等根絶相談窓口への通報件数も増加傾向にあり、対策が急がれる。
- ✓ 期中の代表戦対応やオリンピック・パラリンピックなどの影響を受けて**局内人的リソースへの負荷増大**。
- ✓ **国際戦略の推進**は引き続き要検討。

2021年度活動実績・主なトピック／ビジネス

① フットボールの進化【強化・育成】

② より多くの仲間とともに【普及】

③ 強く、信頼される組織づくり

④ **新たな収益循環モデルの構築**

実績 トピック



- ✓ **価値共創型の新たなパートナーシップ制度**について、プランニングおよび設計を行い理事会決議まで完了。
- ✓ ファン・サポーター向けの訴求施策として、**JFAメールマガジン**をローンチ。代表関連の最新ニュースをはじめ、JFA主催大会の試合詳細やチケット情報、キャンペーンなどを展開しエンゲージメント向上を図る。
- ✓ **チケットJFAをリニューアル**。JFAIDと連携し利便性も向上。
- ✓ 日本代表ファンの**若年層拡大**を狙い、SNS等の新たなメディアを活用した各種PRを実施。また、**Team Cam**をはじめとした日本代表コンテンツの充実を図る。
- ✓ オリンピック・パラリンピックを通じて**Team Football Japanを展開**。男子・女子・5人制サッカーが同じユニフォームで戦った。
- ✓ 入場規制を段階的に緩和し有観客の試合を実施。ワクチン接種者向けの**JFAシート**など**新たな試み**も。
- ✓ スポンサーと連携し、xR等、テクノロジーを活用した**新たな観戦体験提供**にチャレンジ。

評価点 成果



- ✓ 日本代表の**新規サポーターングカンパニー**と新たに提携。
- ✓ 日本代表オフィシャルサプライヤー契約に関する基本合意の締結
- ✓ メールマガジンやチケットJFAの施策に伴い、**約40万人のJFAID取得**を促進。
- ✓ 各種オウンドメディアの閲覧・フォロワー数・インプレッション増で**エンゲージメント強化**に寄与。

課題 改善点



- ✓ AFCにマーケティング権があるワールドカップ最終予選（アウェイ戦）の日本国内地上波放送がなくなるなど、**SAMURAI BLUEの露出量が低下**。
- ✓ コロナ禍の影響もあり**事業収入は減少トレンド**。

1. 中期計画2021-2024 進捗状況の振り返り

2. 中期計画2022-2025

中期計画2022-2025／計画策定のコンセプト

次の100年を発展させるために、この先の4年間でやらなくてはならないこと

JFAは、これまでもこれからも「JFA2005年宣言」を原点に、全ての取り組みを推進していく

JFA2005年宣言の2つの約束

2050年までに
FIFAワールドカップで優勝する

2050年までに
サッカーファミリーが1,000万人になる

フット ボール

強い日本代表、そして育成。それを下支えする普及基盤の整備

- ✓ 四位一体の推進とJapan's Wayの追求、指導者養成改革とエリートコーチの国際化
- ✓ メンバーシップの運用開始と登録制度改革
- ✓ キッズ・4種年代の普及施策強化、セーフガーディングポリシーの徹底、Football For All

組織

コロナ禍における基盤強化と社会的責任の追求、デジタル化

- ✓ あらゆる危機を想定した経営基盤強化と協会事業の最適化
- ✓ JFA・加盟団体も含めたガバナンス・コンプライアンスの徹底とSDGsへの取り組み
- ✓ フットボール・組織・マーケティングの3領域にまたがるデジタル化の推進

マーケ ティング

パートナーとの共創による新しい価値の提供



- ✓ デジタルを軸にしたファン・サポーターへの新たな訴求
- ✓ 日本代表のコンテンツ力強化・熱量の醸成
- ✓ 「ハイブリッド型」による新たなパートナーシップの構築

※今回の中期計画より、区分名称を変更

特に注視する外部環境

- 新型コロナウイルスの感染拡大と世界経済の動向
- ワールドカップ隔年開催など、国際環境の変化に対する適切な対応

中期計画2022-2025／フットボールカレンダーと目標

	2022年	2023年	2024年	2025年
 SAMURAI BLUE	目標：ベスト8 FIFAワールドカップ (カタール)			
 NADESHIKO JAPAN		目標：優勝 FIFA女子ワールドカップ (オーストラリア／NZ)	目標：メダル獲得 オリンピック／パラリンピック (パリ)	—
五輪代表	—	—	目標：メダル獲得 オリンピック／パラリンピック (パリ)	—
育成年代	目標：優勝 FIFA U-20／U-17 女子ワールドカップ	目標：優勝 FIFA U-20／U-17 ワールドカップ	目標：優勝 FIFA U-20／U-17 女子ワールドカップ	目標：優勝 FIFA U-20／U-17 ワールドカップ
フットサル／ビーチ	—	目標：優勝 FIFAビーチサッカーワールドカップ	目標：ベスト8 FIFAフットサルワールドカップ	目標：優勝 FIFAビーチサッカーワールドカップ

中期計画2022-2025／全体像

フットボール



中期計画2022-2025／全体像

フットボール

1 フットボールの進化【強化・育成】

「2050年までにワールドカップ優勝」に向けて

- ・ 四位一体の推進とJapan's Wayの追求
- ・ 指導者養成改革とエリートコーチの国際化、47FAにおける技術担当専任化
- ・ コンペティションカレンダーの最適化
- ・ JFA夢フィールド、JFAヨーロッパオフィス、JFAメディカルセンター等の連携
- ・ 世界で活躍できる審判員の養成と国内トップリーグレフェリングの一層の向上

2 より多くの仲間とともに【普及】

「2050年までにサッカーファミリー1,000万人」に向けて

- ・ メンバーシップ制度の導入と登録制度の改革
- ・ Football for All、多様性の推進（障がい者サッカー、ウォーキングフットボール、eスポーツ等）
- ・ 戦略的な施設整備の推進（子どもの遊び場、まちづくり連携、降雪地域対策）
- ・ 健康領域への新たなチャレンジ
- ・ 健全育成クラブ・健全育成リーグ基準の導入と部活動対策

重点 3領域

キッズ・4種年代

- ・ ゴール・ボール配布を含むキッズ巡回指導の強化
- ・ 低・中学年におけるスモールサイドゲームの導入
- ・ セーフガーディングポリシーの徹底
- ・ 登録料改革

女子

- ・ なでしこジャパンの強化
- ・ 国体女子U-16をはじめとするゲーム環境整備
- ・ 普及施策の推進、女性指導者の養成、健康領域の施策連携
- ・ .WE LEAGUEとの連携による強化・育成・普及

シニア

- ・ シニアの競技プレー環境の充実
- ・ フェスティバル等各種イベントの企画
- ・ 健康領域の施策との連携
- ・ メンバーシップ連携施策の検討、実施

デジタル 推進

強化・育成

テクニカル／フィジカル／メディカル

普及

登録制度改革とメンバーシップ

組織

3 強く、信頼される組織づくり

コロナ禍における基盤強化と社会的責任の追求

- ・ あらゆる危機を想定した経営基盤強化と協会事業の最適化
- ・ JFA・加盟団体も含めたサッカー界ガバナンス、コンプライアンスの強化とSDGsの推進
- ・ フットボール・組織・マーケティングの3領域にまたがるデジタル化の推進
- ・ 国際戦略の強化（存在感の発揮、国際機関での意思決定参画）

マーケティング

4 新たな収益循環モデルの構築

パートナーとの共創による新しい価値の提供

- ・ デジタルを軸にしたファン・サポーターへの新たな訴求
- ・ 日本代表のコンテンツ力強化・熱量の醸成
- ・ 「ハイブリッド型」による新たなパートナーシップの構築

1 フットボールの進化【強化・育成】

JFA2005年宣言「2050年までにワールドカップ[®]優勝」に向けて

4カ年目標

-2022年

SAMURAI BLUE FIFAワールドカップ（カタール） 目標：ベスト8

育成年代（女子） FIFA U-20/U-17女子ワールドカップ 目標：優勝

-2023年

なでしこジャパン FIFA女子ワールドカップ（オーストラリア／NZ） 目標：優勝

育成年代（男子） FIFA U-20/U-17ワールドカップ 目標：優勝

ビーチ FIFAビーチサッカーワールドカップ 目標：優勝

-2024年

五輪代表 オリンピック／パラリンピック（パリ） 目標：メダル獲得

なでしこジャパン オリンピック／パラリンピック（パリ） 目標：メダル獲得

育成年代（女子） FIFA U-20/U-17女子ワールドカップ 目標：優勝

フットサル FIFAフットサルワールドカップ 目標：ベスト8

-2025年

育成年代（男子） FIFA U-20/U-17ワールドカップ 目標：優勝

ビーチ FIFAビーチサッカーワールドカップ 目標：優勝

4カ年重点アクション

- 四位一体の推進とJapan's Wayの追求★★★（別記あり）
- 指導者養成改革とエリートコーチの国際化、47FAにおける技術担当専任化
- コンペティションカレンダーの最適化
- JFA夢フィールド、JFAヨーロッパオフィス、JFAメディカルセンター等の連携
- 世界で活躍できる審判員の養成と国内トップリーグレフェリングの一層の向上

重点3領域

女子

- なでしこジャパンの強化
- 国体女子U-16をはじめとするゲーム環境整備
- .WE LEAGUEとの連携による強化・育成・普及

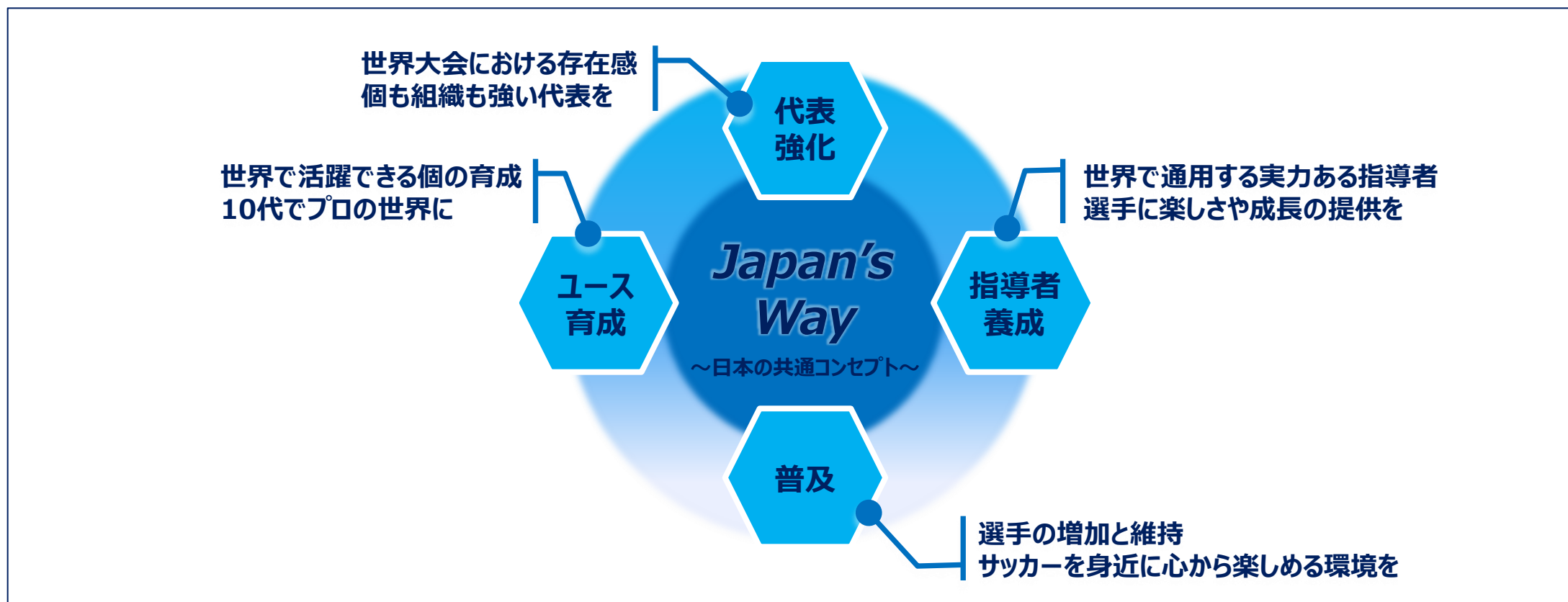
デジタル推進

○テクニカル／フィジカル／メディカル

フットボール【強化・育成】におけるテクニカル／フィジカル／メディカルの3領域でのデジタル推進は重要課題。JFA夢フィールドへのAIカメラの導入、テクニカル情報の収集と分析、ライブ映像の指導者等への配信など、他領域にわたる新たなチャレンジに着手。代表選手やトレセン招集選手などのフィジカル・メディカル情報のデジタル化も重要課題。

▶▶▶ 日本サッカー発展のための四位一体の推進とJapan's Wayの追求

ワールドカップで優勝するため、世界に勝っていくため、そして日本サッカー発展のためには、『四位一体』が重要です。その際、日本が進むべき共通の方向性・コンセプトとして掲げる『Japan's Way』を核とし、今後も追求していきます。



2 より多くの仲間とともに【普及】

JFA2005年宣言「2050年までにサッカーファミリー1,000万人」に向けて

4カ年目標

メンバーシップ登録者

250万

(2022年) サービスローンチ → (2025年) 250万人



▶選手登録者数

+17.8%

(2020年) 818,418人 → (2025年) 964,425人



▶指導者登録者数

+43.4%

(2020年) 82,258人 → (2025年) 117,946人



▶審判登録者数

+17.0%

(2020年) 261,149人 → (2025年) 305,623人

4カ年重点アクション

- メンバーシップ制度の導入と登録制度の改革★★★（別記あり）
- Football for All、多様性の推進（障がい者サッカー、ウォーキングフットボール、eスポーツ等）
- 戦略的な施設整備の推進（子どもの遊び場、まちづくり連携、降雪地域対策）
- 健康領域への新たなチャレンジ
- 健全育成クラブ・健全育成リーグ基準の導入（現在、構想段階）と部活動対策

重点3領域

キッズ
4種年代

- 登録料改革
- ゴール・ボール配布を含むキッズ巡回指導の強化
- 低・中学年におけるスモールサイドゲームの導入
- セーフガーディングポリシーの徹底

女子

- 普及施策の推進、女性指導者の養成、健康領域の施策連携
- .WE LEAGUEとの連携による強化・育成・普及

シニア

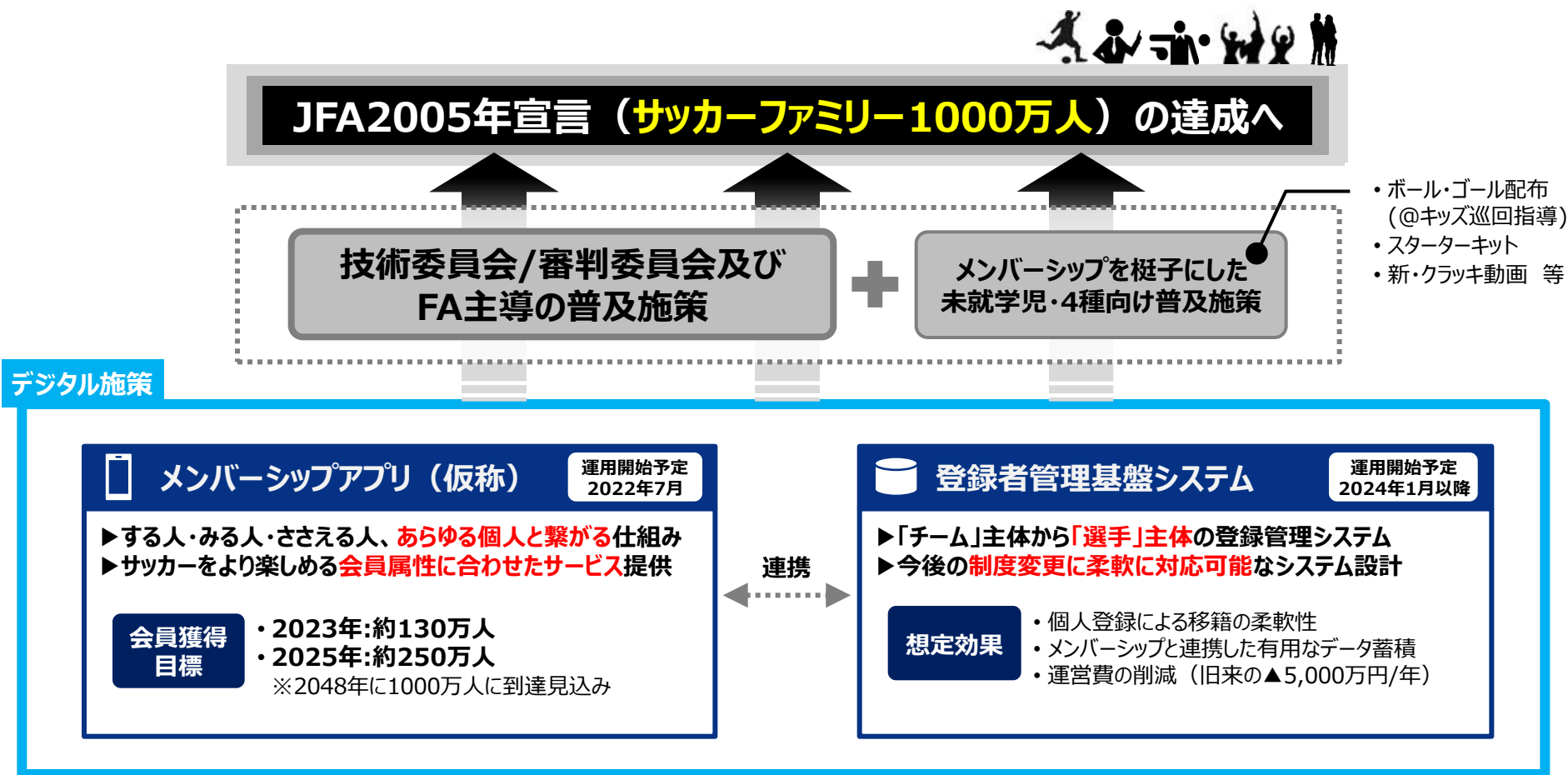
- シニアの競技プレー環境の充実
- フェスティバル等各種イベントの企画
- 健康領域の施策との連携
- メンバーシップ連携施策の検討、実施

デジタル推進

- 登録制度改革とメンバーシップ★★★（別記あり）

▶▶▶ 2022年、メンバーシップの運用開始と登録管理基盤システムの改革に本格着手

- 目標を達成するためのサッカー界の2つのIT基盤システムの開発
- リアル(アナログ)におけるサッカーとの出会いやその後の成長・感動を下支えするデジタル活用



▶▶▶ 2050年までにサッカーファミリー1,000万人を必ず達成する

2050年までにサッカーファミリーを1,000万人を達成するキーファクター(メンバーシップ制度の導入で実現したい世界)

サッカーファミリーとは

JFAが言うサッカーファミリーは、選手・指導者・審判員などの一部の登録者だけでなく、子どもたちの保護者や、日本代表などを応援するファン・サポーターの方々、協会やクラブのスタッフなど、サッカーに携わり、サッカーを愛する仲間です。

- ### 1. サッカーファミリーひとりひとりとの繋がりを実現するメンバーシップ制度の運用開始

2022年春に運用開始を予定しているメンバーシップ制度（仮称）は、サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーの誰もが加入できる永年のメンバーシップサービスです。これまでJFAは、一部の登録選手や指導者、審判員等としか直接的な繋がりをもっていなかったのですが、このメンバーシップ制度の運用開始により、あらゆるサッカーファミリーひとりひとりとの長期的な繋がりを実現します。
- ### 2. サッカーファミリーへの直接的なサービスの提供とサッカーライフの充実に向けた貢献

メンバーシップ制度の運用開始により、JFAは、既存の登録者層に加え、これまで直接的な繋がりなかった新たなサッカーファミリー層に対しても、その属性に合わせたより直接的なサービス提供を行っていきます。未就学児や小学校低学年の選手、その保護者をはじめ、社会人となり友人と緩やかにサッカーやフットサルを楽しむ方々など、サッカーの楽しみ方は非常に多様です。JFAは、会員のビッグデータを活用しながら、こうしたサッカーファミリーのニーズに答え、新たなサービスを提供し、サッカーライフの充実に貢献していきます。
- ### 3. 200万人規模の「元登録者層」、それを超える「ファン層」への貢献により、サッカーファミリー1000万へ

学校卒業や部活の引退などにより現役を引退した選手をはじめ、生活環境の変化による引退した元指導者、元審判員など、登録制度を運用開始して以来、日本国内には「元登録者層」の方々は200万人以上になると推計しています。また、日本代表やリーグ・WEリーグなどの「ファン・サポーター」も非常に多く存在します。JFAは、メンバーシップサービスの運用開始により、こうした「元登録者」・「ファン層」に対する新たなサッカーとの関わり、サッカーの楽しみなどを提案していきます。

3 強く、信頼される組織づくり

コロナ禍における基盤強化と社会的責任の追求

4カ年重点アクション

- あらゆる危機を想定した経営基盤強化と協会事業の最適化★★★（別記あり）
- JFA・加盟団体も含めたサッカー界ガバナンス、コンプライアンスの強化とSDGsの推進★★★（SDGsについて別記あり）
- フットボール・組織・マーケティングの3領域にまたがるデジタル化の推進
- 国際戦略の強化（存在感の発揮、国際機関での意思決定参画）

▶▶▶ あらゆる危機を想定した経営基盤強化と協会事業の最適化

新型コロナウイルスの感染拡大はサッカー界に多くの影響をもたらしています。JFAは、コロナ禍という未曾有の危機を「サッカーファミリー」とともに乗り越えるため、2022年から2025年までの間に、以下の3つのアクションを遂行し、経営基盤強化に努めます。

Action 1. 協会事業の最適化／事業評価

目先の収支改善だけではなく、数年先の組織成長を見据えた事業最適化も目指した「中期的」なJFA事業の見直し（事業評価）に着手。現在、約470におよぶJFAの全事業について、それぞれ「事業の位置づけ（重要性）」や「削減余地」、「投下リソース規模」などの一次情報を集約。引き続き、協会事業の最適化に取り組む。

Action 2. JFAハウスの有効活用

1）JFAハウスの老朽化によるメンテナンスコストの増大、2）働き方の変化によるJFAハウスのスペース稼働率低下、3）サッカー界の将来の成長のための資源確保を背景に、JFAハウスの有効活用の検討を開始。

Action 3. JFA事務局機能の強化

サッカー界を取り巻く環境や社会全体の環境変化が激しい中でもフットボールの強化と普及に貢献し、新たなチャレンジを遂行していくために、組織能力の強化に取り組む。事務局の多様性を推進し、マネジメント力の強化をはじめ、サッカー界を牽引していくための人材の育成と組織風土の醸成に注力していく。

▶▶▶SDGs／「誰ひとり取り残さない」サッカー界の実現に向けて

JFAの理念・ビジョンの実現に向けた活動を通じて、SDGsの目標達成に寄与し、「誰ひとり取り残さない」サッカー界の実現を目指します。

JFAが取り組む5つの重要課題



推進戦略の3つの柱

JFA/加盟団体の行動変容

JFAや加盟団体の主体的なSDGs活動の実行により、サッカー界全体で社会課題の解決に貢献

新たな領域への継続的な挑戦

JFAが持つ影響力や組織力に外部の力を加えながら、スポーツ界の先駆者として社会課題解決に向けた新たなチャレンジを実行し続ける

スポンサーアクティベーションの活性化

パートナー企業の期待するSDGsのアクティベーションを実現し、社内外に発信

取組のアウトプット

①代表戦・天皇杯などの競技会やイベント等における施策展開

各種競技会等をSDGs活動のショーケースと位置付け、より多くの方々のサッカーへのアクセス向上や環境保全活動等を実行。天皇杯決勝を集大成とする年間のストーリーを設計して外部に発信する
例) 経済的な課題を抱える家庭の招待等

②社会課題解決の視点に立った制度・事業改革

サッカー界全体の行動変容に向けて、各種制度そのものを見直し、社会課題解決をより推進するスキームに転換していく
例) 環境対策として、「ロングパイル人工芝ピッチ公認制度」のあり方の検討等

▶▶▶SDGs／「誰ひとり取り残さない」サッカー界の実現に向けて

活動総称・ロゴの策定

- 取組の周知や実行を加速するためのツールとして、活動を端的に表す活動総称及びロゴを策定
- 関連活動実施の発信だけでなく、加盟団体、外部団体との連携においてもこれらを活用していく

活動総称 「アスパス！」

総称に込めた思い：

- 「アス」は、「明日（＝未来）」、「us＝私たちにできること」、「Earth＝地球」のトリプルミーニング
- 次の100年のサッカーが今と同じく健全に、安全に、多くの人々により楽しまれ、JFAの理念・ビジョンが体现されていることを目指し、**全てのサッカーファミリーが世代や時代を超えて“パスを繋いでいく”という強い決意を表現**

ロゴ



モチーフ

サッカーボール、地球、地球の生き物や環境、SDGsカラーイメージ
地球でできたサッカーボール その関係は切り離せない私たち人間、動物、
環境など全てが一丸、チームとなって明日を作っていくイメージ



新たな収益循環モデルの構築

パートナーとの共創による新しい価値の提供

4カ年重点アクション

- デジタルを軸にしたファン・サポーターへの新たな訴求
- 日本代表のコンテンツ力強化・熱量の醸成
- 「ハイブリッド型」による新たなパートナーシップの構築★★★（別記あり）

「ハイブリッド型」による新たなパートナーシップの構築／新たなパートナーシップのコンセプト・方向性

コンセプト

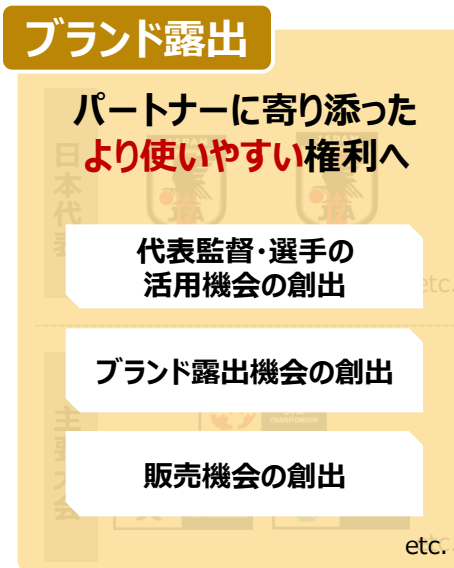
従来の「ブランド露出」の価値向上に加えて、「価値共創」を通じた社会課題解決でさらなる価値向上を

「ハイブリッド型」で協賛価値を最大化

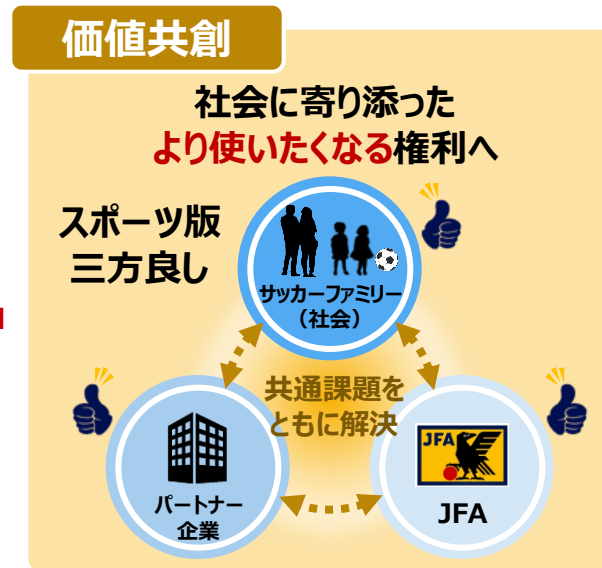
←……… これまで ………→



←……………



これから →



JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの 普及

サッカーの普及に努め、
スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの 強化

サッカーの強化に努め、
日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。

社会の 発展への 貢献

常にフェアプレーの精神を持ち、
国内の、さらには世界の人々との
友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAの約束2050

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが1,000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームになる。



Thank you.

